

こらっせ便り



2014年7月16日

【編集・発行】「福島子ども・こらっせ神奈川」 TEL : 045-353-9008

FAX : 045-353-9998

Eメール : info@korasse-kanagawa.org

私たちの要望で福島の子支援の予算が新たに措置されました！

「2014年度 横浜・山北リフレッシュプログラム」にご支援ください

「福島子ども・こらっせ神奈川」代表 山際 正道

過日の私たちの会議で、最終的に今年度のプログラムに新たに設置された国の予算が使えないことになったという報告を聞いて「残念！」「せっかく努力が実って制度と予算が実現したのに」「来年の適用を目指して今年の企画を成功させ実績を積み重ねよう」との声があがりました。

私たちは、志を同じくする多くの団体とともに移動教室などによる福島県の子どもたちを応援する制度と予算措置を文部科学省お願いしてきました。この運動を受けて文科省・自治体等関係機関にも大いに努力していただき、3億6千万円の予算が措置されました。

これは長期にわたって支援するための礎ができるものと大変うれしく思います。

その適用にあつたては、様々な条件が決められており、あんなに努力した私たちには、今年度の適用はかないませんでした。とても残念なことです。この制度と予算が措置されたことを一歩前進ととらえ、今年度の実績を踏まえて来年度こそ適用されるようにしたいとも考えています。

福島県檜葉町・檜葉町教育委員会、神奈川県・神奈川県教育委員会、横浜市子ども青少年局・横浜市教育委員会、山北町・山北町教育委員会、(財)神奈川県高等学校教育会館をはじめ多くの団体・皆様のご支援をいただきながら、今年も福島県檜葉町の小中学生を招いての「保養と学習支援・交流」プログラム・「2014年度 横浜・山北リフレッシュプログラム」を8月6日～10日の日程で実施します。前半2泊は山北町にある水道事業団の丹沢荘、後半2泊は、横浜市野島青少年研修センターで実施します。内容は、学習と福島ではなかなかできない外での自然と触れ合う行事、科学館の見学など都会ならでの楽しみ、横浜の中学生との交流など参加生徒に興味あるものにしたいと思っています。また参加する生徒と年齢の近い大学生に運営の基本を担っていただき、長期にわたる運営をも展望したいと思っています。

今年をあてにしていた国の予算が適用されなかったことが大きく響き、厳しい財政状況ですが、運営に支障が出ないように取り組みたいと思っています。私たちを取りまく状況についてご理解いただき、多くの皆様に賛同人・団体として、引き続きご支援ご協力をお願いするところです。ご協力よろしく申し上げます。



<2013年夏-楽しかったチクワ作り>

=2014年度 キックオフ講演会報告=

福島っ子に、めいっぱい遊んでもらおうよー ー神奈川で「移動教室」を広げようー

6月14日(土)横浜社会福祉センターで、2014年度「横浜・山北リフレッシュプログラム」に向けたキックオフ講演会が開かれました。今年のタイトルは「福島っ子に、めいっぱい遊んでもらおうよー神奈川で「移動教室」を広げよう」。約50人が集まり、熱心に講師の話聞き、議論しました。



<スライド上映を鑑賞>

(いわき市)で行われた交流会のスライド上映、学生スタッフの栗ヶ窪瑤子さんから昨年の体験談がありました。

集会は、まず山際正道代表から「文科省に働きかけて、福島の子どものための県外での『移動教室』に予算がつかしました。私たちは残念ながら対象になりませんでした。『移動教室』の輪は確実に広がっています。今年も『リフレッシュプログラム』を成功させましょう」とあいさつがありました。

続いて昨年の「リフレッシュプログラム」と今年4月、檜葉町仮設住宅内の「空の家」

日野さんー子どもも教師も疲弊

最初に福島県教職員組合特別中央執行委員である日野彰さんが「福島の子どもの今は」と題して話しました。

福島の子どもの現状はどうなっているのか、日野さんは以前、檜葉中で教えていたが、その教え子の同窓会があり出席したら、原発で働いていた若者が、原発事故後に車に石をぶつけられたという。また、結婚も決まっていたがダメになった若者もいたそうだ。

双葉地方の小中学校の生徒数は、震災前に比べ10分の1に減った。ところが13年度と14年度を比べると再開した学校は増えたが、生徒数は減っている。スクールバスで1時間以上かけて通学しているのが大半だ。生徒は部活も十分やれないし、外で遊べない。以前は何キロも歩いて通っていたのにスクールバスの利用で歩かなくなり、体力が落ちている。

また、生徒に何か問題があった時に遠くて家庭訪問ができない。仮設住宅に家庭訪問してもいいのかという問題もある。教職員も被災者のケースが圧倒的で、中には精神疾患で病休に入っている人もいる。

深刻な福島の実情報告に参加者はじっと聞き入っていました。



<日野彰さん>

花岡さん－本当の教育ができる都会と田舎の移動教室

続いて「木と建築で創造する共生社会実践研究会」事務局長の花岡崇一さんが「伊達－横浜 子どもたちの交流経験から」と題して講演しました。

横浜市立矢向小学校の校長として、5年生全員山梨県道志村で2泊3日の宿泊体験をやった。早朝からの虫取り、川遊びなど子どもたちに好きにやらせた。その後、福島県の旧保原町（現伊達市）の町長から小学生のホームステイの招待を受けた。希望者が行き、ホームステイの受け入れもやった。どちらも今も続いている。

この経験が3.11後に役に立った。伊達市に移動教室の提案、新潟県見附市での移動教室が始まった。音楽の授業で郷土芸能を交換し合うこともやった。



<花岡崇一さん>

見附市は教育長も現場の教師も熱心だったが、これは中越地震でお世話になったから返そうという意識があったからだ。小規模校同士の授業もやった。地域のDNAを残すためにも小規模校は必要と実感。先生が少なければ地域の大人たちが手伝えがいい。

いずれ東京、横浜も震災にあう可能性がある。「こらっせ」を通じて、その時のためにも仲良くしておいた方がいい。人と人がつながるといのは「食べさせてくれ」と言った時に「あなたのためならいいよ」という返事がもらえる関係だ。「こらっせ」を通じて大人同士の関係を作ることは大事だ。

私がやりたいことは、1学期間、都会の小学校が海か山か農村で授業をやること。小学校の時から田舎に行って体験する。日本中でこれをやりたい。伊達と見附の移動教室は、条件が重なってできた面はあるが、突破口になったのでは。こんな事例をたくさん作り、横につながることだ。「こらっせ」に期待している。

花岡さんの実践と提案に大きな拍手がありました。日野さん、花岡さんの講演の後、フロアからの質問、意見を受けました。福島の子どもの健康問題、他の地域で福島の子どもの受け入れを進めている人から文科省の対応などの質問のほか、各所でボランティア活動などを行っている人や学生スタッフからも意見がありました。



<活発な意見交換>

2014年度 横浜・山北リフレッシュプログラム

今年は8月6日(水)から8月10日(日)に横浜・山北リフレッシュプログラムを実施します。山北町では川遊びやバーベキュー、横浜では湾内クルーズ、散策そして横浜の中学生との交流を企画しています。楽しい夏休みを!

日 程

日 時		場 所	プログラム
8月6日(水)	午前 8:00 午後 1:30 夜	いわき市小太郎公園集合 山北町丹沢荘到着	オリエンテーション、自由時間 歓迎の夕べ
8月7日(木)	午 前 午 後 夜	山北町丹沢荘	学習 川遊びなど 川原でバーベキュー (花火大会など)
8月8日(金)	午前 9:30 午後 3:30 夕 方	横浜市桜木町へ 野島青少年研修センター到着	横浜散策 横浜港クルーズ 入所式、自由時間
8月9日(土)	午 前 午 後 夜	野島青少年研修センター	学習 筏づくり&カヌー (横浜の中学生と交流) さよならパーティ
8月10日(日)	午前 10:00 午 後	いわき市小太郎公園へ 帰宅	

さよならパーティーを行います!

プログラムの最終日に、さよならパーティーを企画しています。

子どもたち、ボランティア、そしてプログラムに賛同していただいた方々が、一緒にお食事をしながら映像によるプログラムの振り返りをした後、キャンプファイアを楽しみます。子どもたちもお料理を手伝う予定です。

参加していただける方は、7月31日(木)までに事務局中村(090-4933-2015)まで連絡をお願いいたします。

日時：8月9日(土) 午後6時30分～8時30分

会場：横浜市野島青少年研修センター(シーサイドライン「野島公園」駅徒歩8分)

住所：横浜市金沢区野島町 24-2 野島公園内 <http://yokohama-youth.jp/kenshu/access/>

参加費：500円

●チラシができましたので同封いたします。このプログラムに関心を寄せて下さるお知り合いの方がいらしたらお渡してください。